

わが家に癒やしを  
与えてくれた娘に感謝

2003年9月15日の敬老の日  
に、これから同居することになる  
一羽のセキセイインコの赤ちゃん  
が小さな紙箱に入り、大きく立派  
な鳥かごと一緒にやってきました。  
私は、買い物やサークル、友人  
宅などに歩き、家を空けること  
がたびたび。主人はいつも本を讀  
んだりテレビを見たりで、家でひ  
っそりと留守番をしている。腰を  
痛めているので、外出が苦手な  
です。

そんな父親を慰めようと、娘が  
インコをプレゼントしてくれたの  
です。早速主人は、雄なので『ピ  
ー助』と名前を付けてかわいがり  
大の仲良しになりました。朝はパ  
ジャマ姿のままで鳥かこの清掃、  
水の取り替え、餌の補給をして、  
毎日『ピー助』『ピー助』と呼ん  
でいました。

すると、11月2日に突然『ピー  
助』『ピー助』と主人と同じよう  
な声で言っているのです。そのと  
きの喜びは大変なものでした。

老夫婦には、特別な話題もなく、  
静かな日々でしたが、今はピー助  
のおかげで日中はかこの中を飛び  
回り、大声でさえずり、すっかり  
なれて手から餌を食べたりして、  
本当にかわいいです。

今までより少し忙しくなり、張  
り合いがあります。

体は黄色で、頭の上と羽に黒の  
鹿の子模様があり、胸は濃い緑色  
のピー助。もつと言葉を覚えて、  
2004年は元氣と楽しみをピー  
助にたくさんもらってほがらかに  
過ごしたいと思います。

そして、わが家に癒やしを与え  
てくれた娘に感謝の気持ちでい  
っぱいです。どうもありがとう。

(幌別町/池田悦子さん)

古典に立脚した  
書道探求を

昨年の8月下旬、中国の唐時代  
以前や平安時代以前の書道作品  
(古碑法帖)を手本に書道作品と  
して表す手法、つまり臨書をもと  
にした作品展『第5回古典臨書  
展』を市民会館で開催し、たくさ  
んの書道愛好者が鑑賞くださった。  
北海道はもとより東京など全国  
から出品いただいた臨書作品は一  
人1作品で、全部で213点が集まっ  
た。平成11年に第1回目の69点の  
作品から始めたころに比べると、  
年々作品数が増えていることはう  
れしい限りだ。

この作品展は、だれでも気軽に  
出品できるようにと優劣をつける  
ことはしていない。会場の作品か  
ら書の良さや雰囲気を感じとって

いただければと思う。作品を見て  
いただいた方からは「間近に見る  
ことができる臨書作品には圧倒さ  
れた。墨の濃淡や筆力には勉強さ  
せられる。北海道、それも登別で  
これだけの作品を見ることができ  
ることは幸せなことだ」との声が  
あり、良いものを直接見ることが  
できることは意義深い。

『継続こそ力なり』の言葉どお  
り、これから6回目の作品展の開  
催準備にとりかかるが、書道仲間  
の協力がなければ到底開催できな  
い。書道仲間との和を大切にして、  
実施に向けて努力したいと思う。

書道は奥深く、探求すればする  
ほど自身の勉強不足を感じている。  
古典に立脚した書道を探求するた  
めにも『古典臨書展』を継続して  
いきたいと考えている。

(新川町/榊甚恵造さん・登別古  
典臨書研究会代表)



2003年を振り返って④



登別市まちづくり基本条例検討委員会設置  
(6月27日)



郷土資料館体験学習『親子そば打ち体験』  
(6月28日)